



東中だより

目指す学校像
キャッチフレーズ

生徒一人一人を大切にし 信頼される学校
蕨東の あいさつ一つで笑東へ

生徒数(名)
男子 194
女子 181
計 375

令和8年のはじまりにあたって

校長 阿部 仁

～令和7年から令和8年へ～

この年末・年始は、天候には恵まれたものの、寒い日が多かったように感じました。雪国生まれの私にとっては、この時期の関東地方の「冬晴れ」は眩しく、まさに「新春到来」を実感できます。干支も「巳年」から「午年」へと変わり(十干十二支では丙午)、様々な出来事が華々しく飛躍する年であると言われています。今年は、本校が開校してから66年目を迎えます。本校にとって、喜ばしい出来事であふれる1年であってほしいものです。

～今から60年前の年末年始の本校～

前回の「丙午」、つまり60年前はどのような学校の姿だったのでしょうか。校長室には古い資料が結構残っています。同じ時期(昭和40年12月から昭和41年1月)の「学校日誌」には、当時の様子が克明に示されており、現在の私たちでもうかがい知ることができます。ちなみに、1965年(昭和40年)の2学期の終業式は12月24日で、奇しくも今年度と同じ日となりました。しかし、現在と異なるのは、それ翌日から12月30日までは、土日も含めて毎日「補習」の授業が行われていました。年明けになると、1月3日からは部活動が開始され、3学期の始業式は、1966年(昭和41年)1月8日(土)となっています。当時は土曜日でも学校の課業日でした。さらに目を引くのは、年末年始だけでなく、1年間の全日で、学校に教職員が寝泊まりして管理する「宿直」制度があり、大晦日も元日も先生方が学校を見守っていたことがわかります。

このように、今の学校の仕組みとは異なる環境でもあります。学校日誌(毎日、順番に全先生方が記録を付けています。)の記述から垣間見えるのは、当時も今と同じように、生徒が学習や部活動に全力で取り組めるよう、教職員が様々に配慮して教育活動を行っていたことが手に取るようにわかります。

～お知らせ～

今年度当初から本校けやき学級担任をお務めいただいた大内知行教諭が、ご家庭の事情により12月31日付けでご退職されました。大内教諭からのメッセージは次のとおりです。

私は都合により、2学期をもって東中を退職することとなりました。けやき学級の担任であったため、けやき学級の生徒やテニス部の生徒の皆さん以外とは、あまり接点がありませんでしたが、日々、皆さんの元気な姿をみることで、大変嬉しく感じていました。3学期も皆さんの活躍を陰ながら祈っています。ありがとうございました。

大内先生、お世話になりました。

1月8日から、新たにけやき学級の担当として「木本 深智(きもと みさと)」教諭が本校に着任いたしますので、お知らせいたします。また、これより以前の、12月8日から、けやき学級担当として、本校で英語科教諭としても勤務経験のある「板橋 久江(いたばし ひさえ)」先生にもご勤務いただいておりますので、改めて紹介させていただきます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

—了—